

国際仏教学大学院大学研究紀要
第 25 号 (令和 3 年)

Journal of the International College
for Postgraduate Buddhist Studies
Vol. XXV, 2021

Vinayasūtravṛtṭyabhīdhānasvayākyāna の
古くて新しいサンスクリット語写本

生 野 昌 範

Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna の 古くて新しいサンスクリット語写本

生野 昌範

今まで知られていなかったまったく新しいサンスクリット語写本の出現が近年いちじるしい¹一方で、「発見」自体は古くても今まで研究されることなく現在に至っている写本も存在する²。そこで、本稿においても、「発見」自体は古いが今なお十分な研究がなされているとはいいがたい、古くて新しいサンスクリット語写本の一つに関して検討する。

1 チベットに伝存する *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* の写本

根本説一切有部律の綱要書として GUṆAPRABHA の著した *Vinayasūtra* があるが、その *Vinayasūtra* に対する注釈書の一つに *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* がある³。この *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* のサンスクリット語写本がチベットの Sa skya に伝存していて、RĀHULA SĀNKRTYĀYANA による第二回目のチベット探査によって 1936 年に撮影され

¹ なかでも、正量部の所伝である可能性が高い *Dīrghāgama* に属する、あるいは由来するテキストの写本がチベットに現存するという報告 [DIMITROV 2020: 161–199] は、とりわけ注目にあたいる。

² 代表的な例として、*Tridaṇḍamālā* が挙げられうる。*Tridaṇḍamālā* のサンスクリット語写本は 1939 年にチベットの sPos khang 寺において TUCCI によって写真に撮影されたが、2018 年に松田和信教授が研究を開始するまでこの写本の研究には何ら進展がみられなかった [松田 2019: 1–2]。

³ *Vinayasūtra* と *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* に関しては、VinSūVṛSv (BG): xxiii–xlīii、NIETUPSKI 2009、八尾 2020 参照。GUṆAPRABHA については、VinSūVṛSv (BG): xix–xxii、松本 1987、瀧 2001、NIETUPSKI 2017、Luo 2019 参照。*Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* のチベット語訳およびチベット語翻訳者については、VinSūVṛSv (BG): xviii と YONEZAWA 2016 参照。

た。そして、その *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* のサンスクリット語写本は 72 葉あり⁴、RĀHULA SĀNKRṬYĀYANA によって “V, 1; 193” という番号が付けられた⁵。

1.1 “V, 1; 193” に後続する 3 葉: “V, 2; 194”

その “V, 1; 193” ののちに 3 葉が後続するが、それら 3 葉は RĀHULA SĀNKRṬYĀYANA によって “V, 2; 194” という異なる番号が付けられ、“Pratimokṣasūtraṭīkā” であると記された⁶。

それでは、“Pratimokṣasūtraṭīkā” とは、一体、何であるのか。チベット大蔵経を一瞥すると、*Pratimokṣasūtrapaddhati* (D 4104, P 5605) や *Pratimokṣasūtraṭīkāvinayasamuccaya* (D 4106, P 5607)、*Pratimokṣasūtravṛtṭi* (D 4107, P 5608) などが候補として考えられるが、“Pratimokṣasūtraṭīkā” に完全に一致するタイトルの文献は見出せない。

そこで、“V, 2; 194” が何の文献に属する 3 葉であるのかということに関して、ゲッティンゲンに所蔵されている資料である Xc 14/61 (b)⁷ を用いて検討する。“V, 2; 194” の 3 葉は、写真における裏面 (b 面)⁸ の左端の余白に “I” “II” “III” というローマ数字がそれぞれ書き込まれている⁹。

⁴ Cf. YONEZAWA 2020a: 66–67. しかし、この葉数に関してすでに 1990 年代に異議が唱えられていることに関しては、本稿 1.2 節で取り扱う。

⁵ SĀNKRṬYĀYANA 1937: 22.

⁶ SĀNKRṬYĀYANA 1937: 22.

⁷ BANDURSKI 1994: no. 58 (b). ゲッティンゲンに所蔵されている資料が、RĀHULA SĀNKRṬYĀYANA によって撮影されたネガ・フィルムからの焼き増しなどであることに関しては、BANDURSKI 1994: 12–13 参照。本稿では、ゲッティンゲン所蔵資料を RĀHULA SĀNKRṬYĀYANA 撮影の資料と同等のものとして取り扱う。

⁸ RĀHULA SĀNKRṬYĀYANA による資料＝ゲッティンゲン所蔵資料においては、フオリオの表 (recto) と裏 (verso) を取り違えて撮影されている場合も見られる。したがって、ゲッティンゲン所蔵資料に関しては、写真における表面を a 面、裏面を b 面として表記する。

⁹ Cf. “3 Bl. (keine Originalpaginierung, auf den B-Seiten am linken Rand röm. Zahlen „I“, „II“, „III“ notiert)” [BANDURSKI 1994: 98].

Xc 14/61 (b) を用いて I, II, III の3葉を検討した結果、3葉とも *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* に属するフォリオであることが判明した。そこで、その内容を示すと、以下の表のとおりとなる。なお、本稿で使用する VinSū (RS) と VinSū (TU) のスートラ番号は、すべて第2章 Poṣadhavastu におけるものである。また、*Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* は dBu med 字による別の写本が現存し、その写本のファクシミリ版が出版されているので、その dBu med 字写本における対応箇所も併記する¹⁰。

Xc 14/61 (b)	VinSū (RS) = VinSū (TU) のスートラ番号	VinSūVṛSv MS ¹¹
Ia1	242 に対する注釈 ¹²	17r2-4
Ia1-2	243 に対する注釈	17r4
Ia2	244 に対する注釈	17r4
Ia2-6	245 に対する注釈	17r5-7
Ia6-8	246 に対する注釈	17r7-v1
Ia8-b1	247 に対する注釈	17v1-2
Ib1-2	248 に対する注釈	17v2-3
Ib2	249 に対する注釈	17v3
Ib2-3	250 に対する注釈	17v3-4
Ib3-4	251-252 に対する注釈	17v4-5
Ib4-6	253 のうちの samakṣānte (')py anābhāsitvaṃ hāraḥ (VinSū MS 10r5) に対する注釈	17v5-6
Ib6	253 のうちの vaśīkṛtatvaṃ *balād ¹³ grahe	17v6-7

¹⁰ ただし、この dBu med 字写本は *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* のテキストを任意に取捨選択した「抜粋版 (extract version)」であり、*Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* のすべてのテキストを保持しているのではない [YONEZAWA 2001: 10, 22; YONEZAWA 2020a, 2020b]。この写本に関しては、王森目録も参照 [HU-VON HINÜBER 2006: 287, 299 (no. 8)]。

¹¹ Cf. YONEZAWA 2020a: 73.

¹² この後に、dvitīye parājayike pṛcchā || とある。

¹³ VinSū MS [b]alāt.

	manuṣyasya (VinSū MS 10r5) に対する注 釈	
Ib6-7	254 に対する注釈	17v7
Ib7-8	255 に対する注釈	17v7-8
Ib8	256 に対する注釈	17v8-18r1
Ib8-IIa2	257 に対する注釈	18r1-2
IIa2	258 に対する注釈	18r2-3
IIa2-3	259 に対する注釈	18r3
IIa3	260 に対する注釈	18r3
IIa3-5	261 に対する注釈	18r3-5
IIa5	262 に対する注釈	18r5
IIa5-6	263 に対する注釈	18r5-6
IIa6-7	264 に対する注釈	18r6-7
IIa7	265 に対する注釈	18r7
IIa7-b2	266 のうちの前半部分 ⁺ kulmāsaudana- saktumatsyamāmsakhā(dyakā)dyavastuka- piṇḍapātapratigrahe ¹⁴ (VinSū MS 10r6) に対 する注釈 ¹⁵	18r7-v1
IIb2	267 に対する注釈	18v1
IIb2-3	268 に対する注釈	18v1-2
IIb3	269 に対する注釈	18v2

¹⁴ VinSū MS 10r6: kulmāsaudanasakṣṇumatsyamāmsakhādyavastukapiṇḍapāda-
pratigrahe. なお、VinSūVṛSv MS 18r7 の kulmāsaudanasakta^o も誤写である。また、
kulmāsa^o は kulmāsa^o の異形である [PW s.v.]。

¹⁵ 表に示したとおりスートラ 266 のうちの前半部分に対する注釈は存在する
が、後半部分である (')nājñāte (')nyatra grahe (')vastutvaṃ (VinSū MS 10v1) に対
する注釈は Xc 14/61 (b) にも VinSūVṛSv MS にも存在しない。これら二つのサ
ンスクリット語写本に対して、チベット訳にはこの後半部分に対する注釈も存
在する (bsTan 'gyur, 'Dul ba/'Dul ba'i 'grel pa; C Źu 95b7-96a1, D Źu 95b5-6, G Ḥu
135b1-3, N Ḥu 110b5-6, P Ḥu 111a6-8)。

IIb3-4	270 に対する注釈	18v2-3
IIb4	271 に対する注釈	18v3
IIb4-5	272 に対する注釈	18v3-4
IIb5-6	273 に対する注釈	18v4
IIb6	274 に対する注釈	18v4-5
IIb6-7	275 に対する注釈	18v5-6
IIb7-8	276 に対する注釈	18v6
IIb8	277 に対する注釈	18v6-7
IIIa1-2	2318-2319 に対する注釈	∅
IIIa2-4	2320 に対する注釈 ¹⁶	∅
IIIa4	2321 に対する注釈	∅
IIIa4-5	2322-2323 に対する注釈	∅
IIIa5	2324 に対する注釈 ¹⁷	∅
IIIa5-6	2325 に対する注釈	∅
IIIa6-7	2326-2327 に対する注釈	∅
IIIa7-b1	2328 に対する注釈 ¹⁸	∅
IIIb1-4	2329 に対する注釈 ¹⁹	∅
IIIb4-6	2330 に対する注釈	∅
IIIb6-7	2331 に対する注釈 ²⁰	∅
IIIb7	2332 に対する注釈	∅

上記の表から明らかなように、フォリオ I と II は連続しているが、III は連続していない²¹。そして、I-II は *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna*

¹⁶ この後に、*prasādhanagataṃ* ||| とある。

¹⁷ この後に、*uddharṣagataṃ* ||| とある。

¹⁸ この後に、*liṅāyitvatva{ṃ}gataṃ* ||| とある。

¹⁹ この後に、*prāgalbhyānupraskandaṃ* ||| とある。

²⁰ この後に、*vipravādanaṃ* ||| とある。

²¹ I-II と III はフォーマットの点で相違が見られる。I-II は 8 行書きであるが、

のうちの比丘の *Pārājyika/Pārājika*²² 第 2 条における *Ṗṛcchā* の最終部分と *Vinītaka* の大部分に対する注釈箇所である²³が、III は比丘尼の諸 *Prāyaścittika* の一部に対する注釈箇所である²⁴。

以上のとおり、“V, 2; 194” = Xc 14/61 (b) の 3 葉は *Vinayasūtravṛtyabhidhānasvayākyāna* に属するフォリオである。

1.2 “V, 1; 193” の 72 葉

次に、“V, 1; 193” の *Vinayasūtravṛtyabhidhānasvayākyāna* に属する 72 葉について見る。この 72 葉に関して、RĀHULA SĀṆKṚTYĀYANA は “From its letters, there seem to be two separate MSS., one up to 38 leaves dealing with four *Pārājikas*, and the other 34 leaves deal with *Prāyaścittika* (*sic*) and others” と記す [SĀṆKṚTYĀYANA 1937: 22, 注 3]。この記述から 38 葉と 34 葉は内容が異

III は 7 行書きである [cf. BANDURSKI 1994, 98: “8 Z., teils 7 Z.”]。また、I-II と III とでは書写した人も異なっている。なお、対応するチベット訳は、I-II が C Źu 92a1–97a2, D Źu 91b7–96b7, G Ḥu 129b5–137a3, N Ḥu 106b5–112a1, P Ḥu 107a2–112b3 であり、III が C Zu 36a1–38a2, D Zu 35b4–37b4, G Yu 49a4–52a1, N Yu 42b1–44b5, P Yu 43b1–45b7 である。

²² 術語の少しく異なる語形に関しては、SHONO 2016: 324, 注 25 参照。

²³ *Vinayasūtra* (および *Vinayasūtravṛtyabhidhānasvayākyāna*) における *Pārājika* の構造に関しては、NAKAGAWA 1998: 170 参照。また、*Vinayasūtra* の源泉資料としての *Uttaragrantha* の *Vinītaka*、ならびに *Ṗṛcchā* (= *Upāliparipṛcchā*) に関しては、CLARKE 2015, 2016 参照。さらに、*Uttaragrantha* の *Upāliparipṛcchā* に属する新たなサンスクリット語断簡に関しては、生野 2020b 参照（その中の注 18 において KIEFFER-PÜLZ 2018 を提示しそこなっている）。

²⁴ したがって、これら 3 葉からなる “V, 2; 194” を “It explains *Prāyaścittikas*” [SĀṆKṚTYĀYANA 1937: 22, 注 4] とする記述は、不正確である。それに対して、I の a 面と III の a 面に書き込まれているメモは注意するにあたいする: “Bl. 1, linker Rand: Notiz in Devanāgarī: „194; *Pārājika*; *Vinayapīṭaka*; *ṭīkā*“; Bl. 3a, linker Rand: unlesbare Notiz in Devanāgarī.” [BANDURSKI 1994: 98]。確実ではないが、IIIa のメモには *Prāyaścittika* と書き込まれているように見える。

なっていることがわかるので、以下では 38 葉と 34 葉を分けて述べる²⁵。

まず、38 葉は、ゲッティンゲン所蔵資料の Xc 14/64 に相当する²⁶。これらの 38 葉²⁷は、*Vinayasūtra* のうちの第 1 章 Pravrajyāvastu と第 2 章 Poṣadhavastu に対する注釈である。それら 38 葉のうち、Pravrajyāvastu の注釈箇所と Poṣadhavastu のスートラ 1-110 の途中までの注釈箇所が現在までに校訂されている²⁸が、それに続くスートラ 110 の途中から 168 までの注釈箇所（5 枚のフォリオ）は今なお未校訂である²⁹。

一方、34 葉は、ゲッティンゲン所蔵資料の Xc 14/61 (a) に相当する³⁰。これら 34 葉はすべて未校訂であるので、これらの具体的な内容は現在も詳らかではない。筆者は Xc 14/61 (a) を用いて 34 葉³¹すべての内容をすでに特定しているが、筑紫女学園大学の中川正法教授と四川大学の羅鴻 (Luo Hong) 教授が 10 年以上も前からそれぞれ取り組んでいるとのことである³²ので、筆者の調査結果を公表することは差し控える。

²⁵ なお、RĀHULA SĀṆKṚTYĀYANA は “letters” を根拠として 38 葉と 34 葉が “two separate MSS.” であるようだとしているが、複数人が同一の写本の書写に従事した事例があることも現在では報告されている [MELZER 2014: 238–252]。

²⁶ BANDURSKI 1994: no. 61.

²⁷ 報告によると、正確には 37 葉と片面のみの 2 葉である [VinSūVṛSv (TU) 8: 30–31; YONEZAWA 2020b: 446–447] が、本稿では便宜的に 38 という数を踏襲する。

²⁸ VinSūVṛSv (BG); NAKAGAWA 1987, 1991, 1996, 2000a.

²⁹ VinSūVṛSv (TU) 8: 38, cf. 中川 1999: 138. 未校訂箇所のうち、スートラ 120–123 のテキストに関しては、NAKAGAWA 2000b, 中川 2002: 240 参照。

³⁰ BANDURSKI 1994: no. 58 (a).

³¹ 実際には、後述のとおり 35 葉である。

³² 中川 1999: 139–140; SFERRA 2008: 49, 注 13: “Bandurski 1994: 97–98, 100–101, where they are respectively listed as Xc 14/64 and Xc 14/61. These MSS are being studied by Luo Hong (CTRC).” なお、筆者はツッチ・コレクションにおける *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* [SFERRA 2008: § 3.2, nos. 1–2 (pp. 48–49)] を利用することはできていないので、ツッチ・コレクションとゲッティンゲン所蔵資料における *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* の両資料の葉数の合計が等しいのか、またすべてのフォリオに関して同一のものであるのか、などは不明である。

しかしながら、この 34 葉に関して中川教授によって提起されたままになっている問題があるので、それに回答することは許されるのではないかと思われる。その問題とは、34 葉とされている枚数に関して「筆者（＝中川教授）がフォリオの枚数を確認したところ、同じ書体で連続して並べられているフォリオ数は、35 葉であった。それぞれのフォリオの裏面の左余白には、番号が付されている。第 3 シート b の第 3 葉と第 4 葉には、いずれも「19」という数字があり、その為に枚数が 35 葉となる。まだ、テキストの解読並びに内容が不明であるために、ラーフラが言及しているようなテーマのものかさえ判断できないが、……問題が残る」[中川 1999: 140] ということである。補足的な説明を加えると、「それぞれのフォリオの裏面の左余白に」付された「番号」とは、明らかに近代になって付された番号である。そして、その番号が 1 から 34 まで付けられているが、19 という番号を付されたフォリオが 2 枚存在しているので、総数は 34 ではなく 35 になる、ということである。しかし、中川教授がこの文章を書かれた当時、その 2 枚のフォリオの「テキストの解読」がなされておらず、「内容が不明で」あったので、Xc 14/61 (a) のフォリオの総数は確定されずに問題とされたまま残されている³³。そこで、本稿ではこの問題に対して回答を提出したい。

まず、19 という番号のフォリオが 2 枚あるので、一方を 19(1)、他方を 19(2) と追加の番号を暫定的に設定する。19(1) と 19(2) として設定したこれら 2 枚のフォリオは、どちらも RĀHULA SĀṆKṚTYĀYANA が言及しており *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* に属するフォリオである。そして、19(1) と 19(2) の具体的な内容は、以下の表のとおりである。

³³ フォリオの内容を検討しない限り、これら 2 枚のフォリオがともに *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* に属するとは確定されえない。なお、BANDURSKI もフォリオの総数に関して “35 Bl.: 1–34 (2 verschiedene foll. „19“)” と記す [BANDURSKI 1994: 97] が、内容を検討した結果ではない。さらに、余白に付された番号に関して、“Die meisten Blätter ohne Original-Paginierung; Bl.-Nm. in Devanāgarī, am linken Blattrand angebracht.” [BANDURSKI 1994: 97, 注 284] も参照。

	注釈対象となる VinSū (RS) = VinSū (TU) のストラ番号	
	a 面	b 面
19 (1)	841–855 ³⁴	855–864
19 (2)	880–886	886–894

この表から明らかなおお、19 (1) と 19 (2) は *Vinayasūtra* の異なるストラに対して注釈している異なる 2 枚のフォリオ³⁵である。

以上のとお、中川教授によって提起された問題に関して 19 という番号を付された 2 つのフォリオは内容が異なっているの、Xc 14/61 (a) のフォリオの総数は 34 葉ではなく 35 葉である、ということを確認した。

まとめ

今回の調査により、今まで “Pratimokṣasūtraṭīkā” とされてきた Xc 14/61 (b) の 3 葉は *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākyāna* に属するフォリオであることが判明した。また、以前から *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākyāna* に属することが認められてきた Xc 14/61 (a) は実際には 34 葉ではなく 35 葉である、ということを確認した。したがって、*Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākyāna* のサンスクリット語写本に属すると現在確認しうるフォリオの数は、Xc 14/61 (a) の 35 葉と Xc 14/61 (b) の 3 葉および Xc 14/64 の 38 葉の合計 76 葉となり、今まで認められていた 72 葉から 4 葉の増加となった。なお、今回 *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākyāna* に属することが明らかとなった Xc 14/61 (b) の 3 葉のうち、Xc 14/61 (a) および Xc 14/64 と重複するフォリオは存在しない³⁶。

³⁴ ストラ 841 と 852–853 に対する注釈は、「抜粋版」である dBu med 字写本においても存在する [VinSūVṛSv MS 27r6–8, r8–v1; YONEZAWA 2020a: 76]。

³⁵ さらに、19 (1) と 19 (2) は連続したフォリオではなく、19 (1) と 19 (2) の間に “2” という番号を付された 1 枚のフォリオが介在する。

³⁶ Xc 14/61 (a) と Xc 14/61 (b) および Xc 14/64 のそれぞれのフォリオが同一の写本に属しているのか、それともこれらのフォリオが複数の写本に属しているのかは、今後検討されなければならない課題である。

付論

Vinayasūtra の現在利用しうるテキストである VinSū (RS) と VinSū (TU) において Prāyaścittika 第2条と第3条の分け方に誤りがあることを、本紀要、前号（第24号）に掲載された拙稿において指摘した³⁷。VinSū (RS) と VinSū (TU) における Prāyaścittika に関しては、第2条と第3条の分け方に関する問題のほか、第63条が VinSū (RS) と VinSū (TU) にはまったく存在しないという重大な不備が見られる。したがって、*Vinayasūtra* における Prāyaścittika 90条すべてをどのように分けるべきであるのかということを検討する必要がある。

以下に、Prāyaścittika 90条すべてに関して VinSū MS を用いて³⁸検討した調査結果を表にして示す。左側が *Vinayasūtra* の Prāyaścittika に関して筆者の提示する新たな区分であり、右側が現在利用しうるテキストにおける区分である。筆者の提示する区分においても、ストラ番号は VinSū (TU) におけるストラ番号³⁹を採用しているが、サブタイトルは VinSū MS を用いて確認した。なお、ストラ番号はすべて *Vinayasūtra* の第2章 Poṣadhavastu におけるものである。

³⁷ 生野 2020a: 58, 注 49. なお、生野 2020a: 58–60 において *Vinayasūtra* の Prāyaścittika 第6条を取り扱ったが、*Vinayasūtravṛtyabhidhānasvayākyāna* の未校訂資料である Xc 14/61 (a) は *Vinayasūtra* の Prāyaścittika 第6条に対する注釈箇所も含んでいるので、Xc 14/61 (a) を用いて再考する必要がある。

³⁸ *Vinayasūtravṛtyabhidhānasvayākyāna* の Xc 14/61 (a) の一部は *Vinayasūtra* の Prāyaścittika のサブタイトルに関しても参考になるが、本論で述べた理由により Xc 14/61 (a) はこの表においても取り扱わない。

³⁹ ストラ番号は、VinSū (RS) ではなく VinSū (TU) のみに従う。VinSū (RS) と VinSū (TU) でストラ番号に相違が生じる主な要因は、両者ともに番号を飛ばしていることにある。VinSū (RS) はストラ 1113 の次に 1117 に飛び、VinSū (TU) はストラ 1347 の次に 1350 に飛んでいる。なお、*Vinayasūtra* の Vārṣikavastu において VinSū (RS) = VinSū (TU) におけるストラの分け方とは異なって提示すべき箇所があることについては、SHŌNO 2010: 108–127 参照。

Vinayasūtra における Prāyaścittika⁴⁰

条	筆者の提示する新たな区分		VinSū (RS) = VinSū (TU)	
	ストラ 番号	サブタイトル	ストラ番 号	サブタイトル ⁴¹
1.	938-942	mṣāvādaprāyaścittikaṃ ⁴²	938-942	mṣāvādaprāyaścittikaṃ
2.	943-949	ūnavādaḥ ⁴³	943-953 ⁴⁴	paiśuṇyam
3.	951-953	paiśuṇyaṃ ⁴⁵	954-959	khoṭanam
4.	954-959	khoṭanaṃ ⁴⁶	960-966	deśanā
5.	960-966	deśanā ⁴⁷	967-970	vācanā

⁴⁰ 『根本有部毘奈耶』と *Mahāvīyūpatti* において対応する語を注に記す。なお、*Vinayasūtra* と *Mahāvīyūpatti* における衆学法の条文に関する比較が、中川 1993: 362-370; NAKAGAWA 1998: 173-174 においてなされている。また、VinSūVṛSv (BG): xliii-xliv と HU-VON HINÜBER 1997: 192-195 も参照。

⁴¹ VinSū (RS) と VinSū (TU) はサブタイトルにおいて写本には存在しない [iti] や番号を追加しているが、この表にはサブタイトルを実質的に構成する単語のみを挙げる。なお、VinSū (RS) と VinSū (TU) のあいだで m か ṃ、あるいは ch か cch かなどの些細な相違が見られる場合は、VinSū (TU) に従う。

また、VinSū (RS) = VinSū (TU) が各条項の始まりに付与している見出し語も、写本には存在しない。この見出し語には nom. や loc. の混在が見られるので、かえって理解の妨げになる可能性がある。

⁴² VinSū MS 18b1; D 29a4, P 33a4. Cf. 『根本有部毘奈耶』「故妄語學處第一」(760b15-763c1), Mvy (IF) 8362: mṣā.

⁴³ VinSū MS 18b2; D 29a5, P 33a5. Cf. 『根本有部毘奈耶』「毀告語學處第二」(763c2-767c18), Mvy (IF) 8363: ūnavādaḥ.

⁴⁴ ストラ 950 (anuvādaḥ) は、サブタイトル (ūnavādaḥ) の誤読である。

⁴⁵ VinSū MS 18b2; D 29a6, P 33a6. Cf. 『根本有部毘奈耶』「離間語學處第三」(767c19-770a11), Mvy (IF) 8364: bhikṣupaiśuṇyam.

⁴⁶ VinSū MS 18b3; D 29b1, P 33a8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「發舉學處第四」(770a12-b22), Mvy (IF) 8365: khoṭanam.

⁴⁷ VinSū MS 18b4; D 29b2, P 33b2. Cf. 『根本有部毘奈耶』「獨與女人說法過五六語學處第五」(770b23-771c6), Mvy (IF) 8368: ṣaṭpañcikayā vācā dharmadeśanāyāḥ.

6.	967–970	vācānā ⁴⁸	971–973	kuladūṣaṇam ⁴⁹
7.	971–977	duṣṭhulārocaṇam ⁵⁰	974–977	duṣṭhulārocaṇam
8.	978–981	uttaramaṇuṣ(y)adharmāroca- ṇam ⁵¹	978–981	uttaramaṇuṣyadharmārocaṇam
9.	982–985	†apavādaprāyaścittikaṃ ⁵²	982–985	avavādaprāyaścittikaṃ
10.	986–987	vitaṇḍanā ⁵³	986–987	vitaṇḍanā
11.	988–1026	bijapararohanāśaṇam ⁵⁴	988–990	anuparatāvacchedanaṃ ⁵⁵
12.	1027–1034	kṣepa{ {na} }ṇam ⁵⁶	991–1026	bijapararohanāśaṇam
13.	1035–1044	ājñāvihetṭhaṇam ⁵⁷	1027–1034	kṣepaṇam

⁴⁸ VinSū MS 18b5; D 29b3, P 33b3. Cf. 『根本有部毘奈耶』「與未圓具人同句讀誦學處第六」(771c7–772a16), Mvy (IF) 8369: samapadoddeśādānam.

⁴⁹ このサブタイトルは、サンスクリット語写本にもチベット語訳にも存在しない。なお、Samghāvaśeṣa 第 12 条(条数に関しては後注 157 参照)は **kuladūṣaṇa-samghāvaśeṣā** である [VinSū (RS) 26.28, VinSū (TU) 30.48, cf. Mvy (IF) 8322]。

⁵⁰ VinSū MS 19a2; D 30a1, P 34a2. Cf. 『根本有部毘奈耶』「向未圓具人説僂罪學處第七」(772a24–773c13), Mvy (IF) 8366: duṣṭhulārocaṇam.

⁵¹ VinSū MS 19a2; D 30a2, P 34a3. Cf. 『根本有部毘奈耶』「實得上人法向未圓具人説學處第八」(773c14–774b25), Mvy (IF) 8367: uttaramaṇuṣyadharmārocaṇam.

⁵² VinSū MS 19a3: °prayaścittikaṃ; D 30a3, P 34a5. Cf. 『根本有部毘奈耶』「謗迴衆利物學處第九」(774b26–775a19). Cf. Mvy (IF) 8370: samstutiḥ.

⁵³ VinSū MS 19a3; D 30a4, P 34a5. Cf. 『根本有部毘奈耶』「輕呵戒學處第十」(775a20–c6), Mvy (IF) 8371: vitaṇḍanam.

⁵⁴ VinSū MS 19b4; D 31a1, P 35a5. Cf. 『根本有部毘奈耶』「壞生種學處第十一」(775c10–777a13), Mvy (IF) 8373: bijagrāmabhūtagrāmaṇaśaṇam.

⁵⁵ スートラ 990 の次にあるこの語は、サブタイトルではなく Prāyaścittika 第 11 条のうちの一つのスートラである。なお、このスートラは、anuparatāvacchedanaṃ ではなく anuparatāv achedanaṃ (VinSū MS 19r5) と校訂するべきである。

⁵⁶ VinSū MS 19b5; D 31a3, P 35a7. Cf. 『根本有部毘奈耶』「嫌毀輕賤學處第十二」(777a21–778a19), Cf. Mvy (IF) 8374: avadhyānam.

⁵⁷ VinSū MS 20a2 (語頭の ā は、サンスクリット語からチベット語への翻訳文献において、タイトルなどのサンスクリット語を音写する際に用いられる長音表記によって書写されている) ; D 31a6, P 35b2–3. Cf. 『根本有部毘奈耶』「違惱

14.	1045–1120	śayanāsanaprāyaścittikaṃ ⁵⁸	1035–1044	ājñāvihetṭhanam
15.	1121–1136	saṃstaraprāyaścittika(ṃ) ⁵⁹	1045–1120	śayanāsanaprāyaścittikaṃ
16.	1137–1143	niṣkarṣaṇaṃ ⁶⁰	1121–1136	saṃstaraprāyaścittika ⁶¹
17.	1145–1148	anupraskandy{ā}apātaḥ ⁶²	1137–1174 ⁶³	vihāraprāyaścittikaḥ ⁶⁴
18.	1150–1155	āhāryapādakāhoha ⁶⁵	1175–1186	asammatāvavādaḥ
19.	1157	saprāṇakopabhogaḥ ⁶⁶	1187–1189	astamitāvavādaḥ
20.	1159–1174	+vihāraprāyaścittikaṃ ⁶⁷	1190–1193	āmiṣakiñcītikāvavādaḥ
21.	1175–1186	asammatāvavādaḥ ⁶⁸	1194–1195	cīvarakaraṇaṃ

言教學處第十三」(778a20–779c11), Mvy (IF) 8375: ājñāvihetṭhanam.

⁵⁸ VinSū MS 21a2; D 32b2, P 36b8–37a1. Cf. 『根本有部毘奈耶』「在露地安僧敷具學處第十四」(779c12–783c10), Mvy (IF) 8376: mañcaḥ.

⁵⁹ VinSū MS 21a4; D 32b6, P 37a6. Cf. 『根本有部毘奈耶』「不舉草敷具學處第十五」(783c11–785c21), Mvy (IF) 8377: saṃstarah.

⁶⁰ VinSū MS 21a5; D 33a1, P 37a8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「強牽苾芻出僧房學處第十六」(785c22–786c15), Mvy (IF) 8378: niṣkarṣaṇam.

⁶¹ VinSū (RS) は saṃstaraprāyaścittikaṃ とする。

⁶² VinSū MS 21b1; D 33a2, P 37b1. Cf. 『根本有部毘奈耶』「強惱觸他學處第十七」(786c16–788b18); Mvy (IF) 8379: anupraskandyapātaḥ.

⁶³ スートラ 1144 (niṣkarṣaṇaṃ)、1149 (anupraskandyāpātaḥ)、1156 (āhāryapādakāhoha)、1158 (saprāṇakopabhogaḥ) は、それぞれサブタイトルである。

⁶⁴ VinSū (RS) は vihāraprāyaścittikaṃ とする。

⁶⁵ VinSū MS 21b2; D 33a3–4, P 37b3. āhāryapādakārohaḥ、もしくは āhāryapādakārohī の誤写と考えられる。Cf. 『根本有部毘奈耶』「故放身坐臥脱脚床學處第十八」(788b26–789b7); Mvy (IF) 8380: āhāryapādakārohī.

⁶⁶ VinSū MS 21b2; D 33a4, P 37b3. Cf. 『根本有部毘奈耶』「用蟲水學處第十九」(789b8–c5); Mvy (IF) 8381: saprāṇikopabhogaḥ.

⁶⁷ VinSū MS 21b3: vihāraprāyaścittikaḥ; D 33a6–7, P 37b7. Cf. 『根本有部毘奈耶』「造大寺過限學處第二十」(789c6–792a9), Mvy (IF) 8382: dvau vā trayo vā chadana-paryāyā dātavyāḥ.

⁶⁸ VinSū MS 22a1; D 33b4, P 38a4. Cf. 『根本有部毘奈耶』「衆不差教授苾芻尼學處第二十一」(792a13–803c23), Mvy (IF) 8384: asammatāvavādaḥ.

22.	1187–1189	astamitāvavādaḥ ⁶⁹	1196–1198	cīvarapradānaṃ
23.	1190–1193	āmiṣakiñcitkāvavādaḥ ⁷⁰	1199–1217 ⁷¹	sabhikṣuṇīkajalayaṇoḍhi ⁷²
24.	1194–1195	cīvarakaraṇaṃ ⁷³	1218–1223 ⁷⁴	ekasthānaṃ
25.	1196–1198	cīvara{pra}dānaṃ ⁷⁵	1224–1233	pācitopabhogaḥ
26.	1199–1214	sabhikṣuṇīkādhvo{rū}dhi{h} ⁷⁶	1234–1263	paraṃparabhojanaṃ ⁷⁷
27.	1216–1217	sabhikṣuṇīkajalayaṇoḍhi{h} ⁷⁸	1264–1270	āvasathaparibhogaḥ
28.	1218–1221	ekaniṣadyā ⁷⁹	1271–1281	dvitrapātrapūrātiriktagraha- ṇaṃ ⁸⁰

⁶⁹ VinSū MS 22a1; D 33b5, P 38a5–6. Cf. 『根本有部毘奈耶』「教授苾芻尼至日暮學處第二十二」(803c24–804b24), Mvy (IF) 8385: astamitāvavādaḥ.

⁷⁰ VinSū MS 22a2; D 33b6, P 38a7. Cf. 『根本有部毘奈耶』「謗他爲飲食故教授苾芻尼學處第二十三」(804b25–805a4), Mvy (IF) 8386: āmiṣakiñcitkāvavādaḥ.

⁷¹ スートラ 1215 (sabhikṣuṇīkādhvorūḍhi) は、サブタイトルである。

⁷² VinSū (RS) は bhikṣuṇīkajalayaṇoḍhiḥ とする。

⁷³ VinSū MS 22a2; D 33b6–7, P 38a7–8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「與非親苾芻尼作衣學處第二十五」(805b27–806a17), Mvy (IF) 8388: cīvarakaraṇaṃ.

なお、*Vinayasūtra* と『根本有部毘奈耶』の *Prāyaścittika* のあいだで、この第 24 条の *cīvarakaraṇaṃ* と次の第 25 条の *cīvaradānaṃ* のみ順序が異なっている。

⁷⁴ スートラ 1222 (ekaniṣadyā) は、サブタイトルである。

⁷⁵ VinSū MS 22a3; D 33b7, P 38a8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「與非親苾芻尼衣學處第二十四」(805a5–b19), Mvy (IF) 8387: cīvaradānaṃ.

⁷⁶ VinSū MS 22a4; D 34a3–4, P 38b4. Cf. 『根本有部毘奈耶』「與苾芻尼同道行學處第二十六」(806a18–807a16), Mvy (IF) 8389: bhikṣuṇīsārthena saha gamanam.

⁷⁷ VinSū (RS) は paraṃpar[ā]bhojanaṃ とする。

⁷⁸ VinSū MS 22a5; D 34a5, P 38b6. Cf. 『根本有部毘奈耶』「與苾芻尼同乘一船學處第二十七」(807a17–b23), Mvy (IF) 8390: sabhikṣuṇījalayaṇoḍhiḥ.

⁷⁹ VinSū MS 22b1; D 34a6, P 38b8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「獨與女人在屏處坐學處第二十八」(807b24–808a6), Cf. Mvy (IF) 8391: rahasi niṣadyā.

⁸⁰ VinSū (RS) は dvitripātrapūrātiriktagrahaṇaṃ とする。

29.	1223	ekasthānaṃ ⁸¹	1282–1307	[niriktakarāṇaṃ] ⁸²
30.	1224–1233	pācitopabhogāḥ ⁸³	1308–1310	ekāsanabhojanam
31.	1234–1263	paraṃparabhojanam ⁸⁴	1311	pravāritaniyogaḥ
32.	1264–1270	āvasathaparibhogāḥ ⁸⁵	1312–1323	gaṇabhojanam
33.	1271–1281	dvitrapātrapūrīrīktagrahaṇam ⁸⁶	1324–1326	akālabhojanam
34.	1282–1310	ekāsanabhojanam ⁸⁷	1327–1419	sannihitavarjanam
35.	1311	pravāritaniyogaḥ ⁸⁸	1420–1439	[pratigrāhitabhukṭiḥ] ⁸⁹
36.	1312–1323	gaṇabhojanam ⁹⁰	1440–1445	apratigrāhitabhukṭiḥ
37.	1324–1326	akālabhojanam ⁹¹	1446–1452	praṇāvijñāptanam

⁸¹ VinSū MS 22b1; D 34a7, P 38b8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「與苾芻尼屏處坐學處第二十九」(808a7–b2), Mvy (IF) 8392: rahasi sthānam.

⁸² このサブタイトルは VinSū (RS) にのみある。一方、VinSū (TU) には、サブタイトルは何もないが、見出し語として *niriktakarāṇa* が設定されている。なお、見出し語というのは、前述（注 41）のとおり写本には存在しない。

⁸³ VinSū MS 22b2; D 34b1, P 39a2. Cf. 『根本有部毘奈耶』「知苾芻尼讚歎得食學處第三十」(808b3–810c12), Mvy (IF) 8393: bhikṣuṇīparipācitapiṇḍapātopabhogāḥ.

⁸⁴ VinSū MS 22b5; D 34b7, P 39b2. Cf. 『根本有部毘奈耶』「展轉食學處第三十一」(810c23–816a5), Mvy (IF) 8395: paraṃparabhojanam.

⁸⁵ VinSū MS 23a1; D 35a2, P 39b4. Cf. 『根本有部毘奈耶』「施一食處過受學處第三十二」(816a13–819b5), Mvy (IF) 8396: ekāvasathāvāsaḥ.

⁸⁶ VinSū MS 23a2; D 35a4, P 39b6. Cf. 『根本有部毘奈耶』「過三鉢受食學處第三十三」(819b6–821a15), Mvy (IF) 8397: dvitripātrapūrīrīktagrahaṇam.

⁸⁷ VinSū MS 23b1; D 35b3, P 40a6: stan gcig (D lhan cig) pa'i zas kyi ltuñ byed do. Cf. 『根本有部毘奈耶』「足食學處第三十四」(821a23–822c9), Mvy (IF) 8398: akṛtaniriktakhādanam.

⁸⁸ VinSū MS 23b1; D 35b4, P 40a6: spañs pa la stobs pa'i ltuñ byed do. Cf. 『根本有部毘奈耶』「勸他足食學處第三十五」(822c10–823b11), Mvy (IF) 8399: akṛtanirikta-pravāraṇam.

⁸⁹ このサブタイトルは、サンスクリット語写本にも藏訳にも存在しない。

⁹⁰ VinSū MS 23b3; D 35b7, P 40b2. Cf. 『根本有部毘奈耶』「別衆食學處第三十六」(823b12–824b6), Mvy (IF) 8400: gaṇabhojanam.

⁹¹ VinSū MS 23b3; D 36a1, P 40b3. Cf. 『根本有部毘奈耶』「非時食學處第三十

38.	1327–1419	sannihitavarjanam ⁹²	1453–1559	sapṛāṇakajalasambaddha- kṣudrakādigaṭaḥ
39.	1420–1445	apratigrāhitabhuktiḥ ⁹³	1560–1567	sabhojane niṣadanam
40.	1446–1452	+praṇītavijñāpanam ⁹⁴	1568–1575	sabhojanasthānam ⁹⁵
41.	1453–1559	sapṛāṇakajalasambaddha- kṣudrakādigaṭaḥ ⁹⁶	1576–1585	aceladānam
42.	1560–1567	sabhojane niṣadanam ⁹⁷	1586–1590	senādarśanam ⁹⁸
43.	1568–1575	sabhojane sthānam ⁹⁹	1591–1592	senāvāsaḥ ¹⁰⁰
44.	1576–1585	aceladānam ¹⁰¹	1593–1603	yuddhāṅgapratyanubhavaḥ ¹⁰²

七] (824b7–c19), Mvy (IF) 8401: akālabhojanam.

⁹² VinSū MS 24b5; D 37b1, P 42a6. Cf. 『根本有部毘奈耶』「食曾觸食學處第三十八」(824c20–825a24), Mvy (IF) 8402: sannihitavarjanam.

⁹³ VinSū MS 25a4; D 38a2, P 42b8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「不受食學處第三十九」(825a25–827b11), Mvy (IF) 8403: apratigrāhitabhuktiḥ.

⁹⁴ VinSū MS 25b1: praṇītavijñāpanam; D 38a4, P 43a3. Cf. 『根本有部毘奈耶』「索美食學處第四十」(827b19–828b11), Mvy (IF) 8404: praṇītavijñāpanam.

⁹⁵ VinSū (RS) は sabhojane sthānam とする。

⁹⁶ VinSū MS 26b5; D 40a2, P 45a2–3. Cf. 『根本有部毘奈耶』「受用蟲水學處第四十一」(828b15–c10), Mvy (IF) 8405: sapṛāṇijalopabhogaḥ.

⁹⁷ VinSū MS 27a1; D 40a3, P 45a4. sabhojananiṣadanam の誤写である可能性もある。Cf. 『根本有部毘奈耶』「知有食家強坐學處第四十二」(828c11–829a12), Mvy (IF) 8406: sabhojanakulaniṣadyā.

⁹⁸ VinSū (RS) は senādarśane [prāyaścittika]m とする。

⁹⁹ VinSū MS 27a2; D 40a4–5, P 45a6. sabhojanasthānam の誤写である可能性もある。Cf. 『根本有部毘奈耶』「知有食家強立學處第四十三」(829a13–b3), Mvy (IF) 8407: sabhojanakulasthānam.

¹⁰⁰ VinSū (RS) は senāvāsa° (= senāvāsaprāyaścittikam) とする。

¹⁰¹ VinSū MS 27a3; D 40a6, P 45a8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「與無衣外道男女食學處第四十四」(829b4–831a12), Mvy (IF) 8408: aceladānam.

¹⁰² VinSū (RS) は yuddhāṅgapratyanubhavaḥ とする。

45.	1586–1590	senādarśanam ¹⁰³	1604–1614	praharaṇam
46.	1591–1592	senāvāsah ¹⁰⁴	1615–1616	avagūraṇam
47.	1593–1603	yu(d)dhāṅapratyanubhavaḥ ¹⁰⁵	1617–1621	avadyapratichādanam
48.	1604–1614	praharaṇam ¹⁰⁶	1622	bhaktachedakāraṇam
49.	1615–1616	avagūraṇam ¹⁰⁷	1623–1635	agnivṛttam
50.	1617–1621	avadyapratichādanam ¹⁰⁸	1636–1637	chandapratyuddhāraḥ
51.	1622	bhaktachedakāraṇam ¹⁰⁹	1638–1646	[śayanaprāyaścittikam] ¹¹⁰
52.	1623–1635	agnivṛttam ¹¹¹	1647–1654	[strīśahasvapnam] ¹¹²

¹⁰³ VinSū MS 27a4; D 40b1, P 45b2. Cf. 『根本有部毘奈耶』「觀軍學處第四十五」(831a13–c15), Mvy (IF) 8409: senādarśanam.

¹⁰⁴ VinSū MS 27a4; D 40b1, P 45b2–3. Cf. 『根本有部毘奈耶』「軍中過二宿學處第四十六」(831c16–832b9), Mvy (IF) 8410: senāvāsah.

¹⁰⁵ VinSū MS 27a5; D 40b3–4, P 45b5. Cf. 『根本有部毘奈耶』「擾亂軍兵學處第四十七」(832b10–c21), Mvy (IF) 8411: udyūthikāgamanam; cf. BHSD s.v. udyūthikā.

¹⁰⁶ VinSū MS 27b1; D 40b5, P 45b8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「打苾芻學處第四十八」(832c22–833a24), Mvy (IF) 8412: prahāradānam.

¹⁰⁷ VinSū MS 27b1; D 40b6, P 45b8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「擬手向苾芻學處第四十九」(833b6–25), Mvy (IF) 8413: udguraṇam; cf. BHSD s.v. udguraṇa.

¹⁰⁸ VinSū MS 27b2; D 40b7, P 46a1–2. Cf. 『根本有部毘奈耶』「覆藏他罪學處第五十」(833b26–834a21), Mvy (IF) 8414: duṣṭhulapratichādanam.

¹⁰⁹ VinSū MS 27b2; D 41a1, P 46a2. Cf. 『根本有部毘奈耶』「共至俗家不與食學處第五十一」(834a25–835a1), Mvy (IF) 8415: bhaktachedakāraṇam.

¹¹⁰ このサブタイトルは、サンスクリット語写本にもチベット語訳にも存在しない。なお、新区分の Prāyaścittika 第 14 条は śayanāsanaprāyaścittikam である。

¹¹¹ VinSū MS 27b5; D 41a5, P 46a7. Cf. 『根本有部毘奈耶』「觸火學處第五十二」(835a2–837c27), Mvy (IF) 8416: agnivṛttam.

¹¹² このサブタイトルは、サンスクリット語写本にもチベット語訳にも存在しない。なお、新区分の Prāyaścittika 第 65 条は strīśahasāyā である。

53.	1636–1637	chandapratyuddhārah ¹¹³	1655–1668	anupasampannaḥ ¹¹⁴ sahasvap- naḥ
54.	1638–1668	anupasampanna {h} sahasvap- naḥ ¹¹⁵	1669	ḍṣṭigatānutsargaḥ
55.	1669	ḍṣṭigatānutsargaḥ ¹¹⁶	1670–1682	utkṣiptānupravṛtṭiḥ
56.	1670–1682	utkṣiptānupravṛtṭiḥ ¹¹⁷	1683–1686	nāśitasamgrahaḥ
57.	1683–1686	nāśitasamgrahaḥ ¹¹⁸	1687–1698	araktavastropabhoga[h]
58.	1687–1698	araktavastropabhoga((h)) ¹¹⁹	1699–1800	uddharṣavastugataṃ
59.	1699–1800	uddharṣavastugataṃ ¹²⁰	1801–1815	snātaprāyaścittikaṃ ¹²¹
60.	1801–1815	+snānaprāyaścittikaṃ ¹²²	1816–1817	tiryagvadhaḥ
61.	1816–1817	tiryagvadhaḥ ¹²³	1818–1823	kauṣṭyopasamhārah

¹¹³ VinSū MS 27b5; D 41a5, P 46a7–8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「與欲已更遮學處第五十三」(837c28–838b24), Mvy (IF) 8417: chandapratyuddhārah.

¹¹⁴ VinSū (RS) は anupasampannaḥ とする。

¹¹⁵ VinSū MS 28a5; D 41b6–7, P 47a2. Cf. 『根本有部毘奈耶』「與未近圓人同室宿過二夜學處第五十四」(838c7–840b19), Mvy (IF) 8418: anupasampannasahasvapnaḥ.

¹¹⁶ VinSū MS 28a5; D 42a1, P 47a4. Cf. 『根本有部毘奈耶』「不捨惡見違諫學處第五十五」(840b20–841b4), Mvy (IF) 8419: ḍṣṭigatānutsargaḥ.

¹¹⁷ VinSū MS 28b1; D 42a3, P 47a6. Cf. 『根本有部毘奈耶』「隨捨置人學處第五十六」(841b5–26), Mvy (IF) 8420: utkṣiptānupravṛtṭiḥ.

¹¹⁸ VinSū MS 28b2; D 42a5, P 47a8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「攝受惡見不捨求寂學處第五十七」(841b27–842c25), Mvy (IF) 8421: nāśitasamgrahaḥ.

¹¹⁹ VinSū MS 28b4; D 42b1, P 47b4–5. Cf. 『根本有部毘奈耶』「著不壞色衣學處第五十八」(842c26–845a23), Mvy (IF) 8422: araktavastropabhogaḥ.

¹²⁰ VinSū MS 30a2; D 44a3–4, P 49b2. Cf. 『根本有部毘奈耶』「捉寶學處第五十九」(845b6–847a17), Mvy (IF) 8423: ratnasamsparsaḥ.

¹²¹ VinSū (RS) は snānaprāyaścittikaṃ とする。

¹²² VinSū MS 30a4: s[n]ātaprāyaścittikaṃ; D 44a7, P 49b6. Cf. 『根本有部毘奈耶』「非時洗浴學處第六十」(847a18–c14), Mvy (IF) 8424: snānaprāyaścittikaṃ.

¹²³ VinSū MS 30a4; D 44b1, P 49b7. Cf. 『根本有部毘奈耶』「殺傍生學處第六十

62.	1818–1823	kauṛṭyopasaṃhārah ¹²⁴	1824–1827	pratodanaprāyaścittikam
63.	1824–1827	pratodanaprāyaścittikam ¹²⁵	∅	∅
64.	1828–1838	dravahaṛṣaṇam ¹²⁶	1828–1838	dravahaṛṣaṇam
65.	1839–1842	strīsaḥaśayyā ¹²⁷	1839–1842	strīsaḥaśayyā ¹²⁸
66.	1843–1857	bhīṣaṇam ¹²⁹	1843–1857	bhīṣaṇam
67.	1858–1860	gopanaṃ ¹³⁰	1858–1860	gopanaṃ
68.	1861–1862	dattopajīvanaṃ ¹³¹	1861–1862	dattopajīvanaṃ
69.	1863–1864	asvākyānaprāyaścittikam ¹³²	1863–1864	asvākyānaprāyaścittikam
70.	1865–1870	strīsaḥagamaṇam ¹³³	1865–1870	strīsaḥagamaṇam
71.	1871–1872	steyasaḥagamaṇam ¹³⁴	1871–1872	steyasaḥagamaṇam

一) (847c18–848a16), Mvy (IF) 8425: tiryagvadhaḥ.

¹²⁴ VinSū MS 30a5; D 44b2, P 50a1. Cf. 『根本有部毘奈耶』「故惱苾芻學處第六十二」(848a17–c18), Mvy (IF) 8426: kauṛṭyopasaṃhārah.

¹²⁵ VinSū MS 30b1; D 44b4, P 50a3. Cf. 『根本有部毘奈耶』「以指擊擣學處第六十三」(848c19–849a6), Mvy (IF) 8427: aṅgulipratodanam.

¹²⁶ VinSū MS 30b2; D 44b7, P 50a7. Cf. 『根本有部毘奈耶』「水中戲學處第六十四」(849a7–b24), Mvy (IF) 8428: udakaharṣaṇam.

¹²⁷ VinSū MS 30b3; D 45a1, P 50a8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「與女人同室宿學處第六十五」(849b25–850b25), Mvy (IF) 8429: mātṛgrāmeṇa saha svapnaḥ.

¹²⁸ VinSū (RS) は strīsaḥaśayyāprāya^o (= strīsaḥaśayyāprāyaścittikam) とする。

¹²⁹ VinSū MS 30b5; D 45a5–6, P 50b5–6. Cf. 『根本有部毘奈耶』「恐怖苾芻學處第六十六」(850c6–851a16), Mvy (IF) 8430: bhīṣaṇam.

¹³⁰ VinSū MS 31a1; D 45a6, P 50b7. Cf. 『根本有部毘奈耶』「藏他苾芻等衣鉢學處第六十七」(851a17–b24), Mvy (IF) 8431: gopanaṃ.

¹³¹ VinSū MS 31a1; D 45a7, P 50b7. Cf. 『根本有部毘奈耶』「受他寄衣不問主輒著學處第六十八」(851b25–c19), Mvy (IF) 8432: apratyuddhāryaparibhogaḥ.

¹³² VinSū MS 31a2; D 45b1, P 50b8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「以衆教罪謗清淨苾芻學處第六十九」(851c20–852b10), Mvy (IF) 8433: amūlakābhyākhyānam.

¹³³ VinSū MS 31a2; D 45b2, P 51a1. Cf. 『根本有部毘奈耶』「與女人同道行學處第七十」(852b11–c10), Mvy (IF) 8434: apuruṣayā striyā mārgagamaṇam.

¹³⁴ VinSū MS 31a2–3; D 45b3, P 51a2. Cf. 『根本有部毘奈耶』「與賊同行學處第

72.	1873–1883	ūnopasampādanam ¹³⁵	1873–1883	ūnopasampādanam
73.	1884–1902	+bhūmyudghātaḥ ¹³⁶	1884–1902	bhūmyutghātaḥ ¹³⁷
74.	1903–1916	pravāritārthātisevā ¹³⁸	1903–1916	pravāritārthātisevā
75.	1917–1921	śikṣopasaṃhārapratikṣepaḥ ¹³⁹	1917–1921	śikṣopasaṃhārapratikṣepaḥ
76.	1922–1929	upaśravagatam ¹⁴⁰	1922–1929	upaśravagatam
77.	1930–1935	+sāmagrībhaṅgaḥ ¹⁴¹	1930–1935	samagrībhaṅgaḥ ¹⁴²
78.	1936–1942	anādaravṛttam ¹⁴³	1936–1942	anādaravṛttam
79.	1943–1950	madyapānam ¹⁴⁴	1943–1950	madyapānam
80.	1951–1962	akālacaryā ¹⁴⁵	1951–1962	akālacaryā

七十一」(852c14–853a7), Mvy (IF) 8435: steyasārthagamanam.

¹³⁵ VinSū MS 31a4; D 45b5, P 51a5. Cf. 『根本有部毘奈耶』「與減年者受近圍學處第七十二」(853a8–854a5), Mvy (IF) 8436: ūnaviṃśavarsopasampādanam.

¹³⁶ VinSū MS 31b1: bhūmyutghātaḥ; D 46a2, P 51b3. Cf. 『根本有部毘奈耶』「壞生地學處第七十三」(854a6–b15), Mvy (IF) 8437: khananam.

¹³⁷ VinSū (RS) は bhūmyudghātaḥ とする。

¹³⁸ VinSū MS 31b3; D 46a5–6, P 51b6–7. Cf. 『根本有部毘奈耶』「過四月索食學處第七十四」(854b16–855b9), Mvy (IF) 8438: pravāritārthātisevā.

¹³⁹ VinSū MS 31b4; D 46a7, P 51b8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「遮傳教學處第七十五」(855b10–c18), Mvy (IF) 8440: śikṣopasaṃhārapratikṣepaḥ.

¹⁴⁰ VinSū MS 31b5; D 46b2–3, P 52a3–4. Cf. 『根本有部毘奈耶』「默聽鬪靜學處第七十六」(855c19–856b9), Mvy (IF) 8439: upaśravagatam.

¹⁴¹ VinSū MS 32a1: samagrībhaṅgaḥ; D 46b4, P 52a5. Cf. 『根本有部毘奈耶』「不與欲默然起去學處第七十七」(856b17–c20), Mvy (IF) 8441: tūṣṇīm vikramaṇam.

¹⁴² VinSū (RS) は s[ā]magrībhaṅgaḥ とする。

¹⁴³ VinSū MS 32a2; D 46b6, P 52a8. Cf. 『根本有部毘奈耶』「不恭敬學處第七十八」(856c21–857a12), Mvy (IF) 8442: anādaravṛttam.

¹⁴⁴ VinSū MS 32a3; D 47a1–2, P 52b3. Cf. 『根本有部毘奈耶』「飲酒學處第七十九」(857a13–860a16), Mvy (IF) 8443: surāmaireyamadyapānam.

¹⁴⁵ VinSū MS 32a5; D 47a3, P 52b5. Cf. 『根本有部毘奈耶』「非時入聚落不囑授苾芻學處第八十」(860a17–865c24), Mvy (IF) 8444: akālacaryā.

81.	1963–1964	kulacaryā ¹⁴⁶	1963–1964	kulacaryā
82.	1965–1977	rājakularātricaryā ¹⁴⁷	1965–1977	rājakularātricaryā
83.	1978–1982	śikṣāpadadravyatādhyācārah ¹⁴⁸	1978–1982	śikṣāpadadravyatādhyācārah
84.	1983–1988	sūciḡrhakasampādanam ¹⁴⁹	1983–1988	sūciḡrhakasampādanam
85.	1989–2004	pādakasampādanam ¹⁵⁰	1989–2004	pādakasampādanam
86.	2005–2006	avanāha⟨h⟩ ¹⁵¹	2005–2006	avanāhaḥ
87.	2007–2011	niṣadanagataṃ ¹⁵²	2007–2011	niṣadanagataṃ
88.	2012–2013	kaṇḍūpraticchādanagataṃ ¹⁵³	2012–2013	kaṇḍūpraticchādanagataṃ
89.	2014–2015	varṣāsāṅgataṃ ¹⁵⁴	2014–2015	varṣāsāṅgataṃ ¹⁵⁵
90.	2016–2018	sugatacīvaragataṃ ¹⁵⁶	2016–2018	sugatacīvaragataṃ

¹⁴⁶ VinSū MS 32a5; D 47a4, P 52b7. Cf. 『根本有部毘奈耶』「食前食後行詣餘家不囑授學處第八十一」(865c28–866b24), Mvy (IF) 8445: kulacaryā.

¹⁴⁷ VinSū MS 32b1; D 47a7, P 53a2. Cf. 『根本有部毘奈耶』「入王宮門學處第八十二」(866c6–893c10), Mvy (IF) 8446: rājakularātricaryā.

¹⁴⁸ VinSū MS 32b2; D 47b2, P 53a4. Cf. 『根本有部毘奈耶』「詐言不知學處第八十三」(893c18–894a15), Mvy (IF) 8447: śikṣāpadadravyatāvyaścārah.

¹⁴⁹ VinSū MS 32b3; D 47b3, P 53a6. Cf. 『根本有部毘奈耶』「作針筒學處第八十四」(894a16–b16), Mvy (IF) 8448: sūciḡrhakasampādanam.

¹⁵⁰ VinSū MS 32b5; D 47b6–7, P 53b2. Cf. 『根本有部毘奈耶』「作過量床學處第八十五」(894b17–895b26), Mvy (IF) 8449: pādakasampādanam.

¹⁵¹ VinSū MS 33a1; D 47b7, P 53b3. Cf. 『根本有部毘奈耶』「用草木綿貯床學處第八十六」(895b27–c16), Mvy (IF) 8450: avanāhaḥ.

¹⁵² VinSū MS 33a1; D 48a1, P 53b4. Cf. 『根本有部毘奈耶』「過量作尼師但那學處第八十七」(895c17–896a13), Mvy (IF) 8451: niṣadanagataṃ.

¹⁵³ VinSū MS 33a1; D 48a2, P 53b4–5. Cf. 『根本有部毘奈耶』「作覆瘡衣學處第八十八」(896a14–21), Mvy (IF) 8453: kaṇḍūpraticchādanagataṃ.

¹⁵⁴ VinSū MS 33a2; D 48a2, P 53b5. Cf. 『根本有部毘奈耶』「作雨浴衣學處第八十九」(896a22–897a5), Mvy (IF) 8452: varṣāsāṅgataṃ.

¹⁵⁵ VinSū (RS) は varṣāsāṅgataṃ とする。

¹⁵⁶ VinSū MS 33a2; D 48a3, P 53b6. Cf. 『根本有部毘奈耶』「同佛衣量作衣學處第九十」(897a6–17), Mvy (IF) 8454: sugatacīvaragataṃ.

筆者の提示する新たな区分が、VinSū (RS) = VinSū (TU) における区分と相違する点を箇条書きにしてまとめる。

- スートラ 943–953 は、VinSū (RS) = VinSū (TU) が提示するように一つの条項ではなく、二つの条項（第 2 条と第 3 条）。
- スートラ 971–977 は、VinSū (RS) = VinSū (TU) が提示するように二つの条項ではなく、一つの条項（第 7 条）。
- スートラ 988–1026 は、VinSū (RS) = VinSū (TU) が提示するように二つの条項ではなく、一つの条項（第 11 条）。
- スートラ 1137–1174 は、VinSū (RS) = VinSū (TU) が提示するように一つの条項ではなく、五つの条項（第 16 条～第 20 条）。
- スートラ 1199–1217 は、VinSū (RS) = VinSū (TU) が提示するように一つの条項ではなく、二つの条項（第 26 条と第 27 条）。
- スートラ 1218–1223 は、VinSū (RS) = VinSū (TU) が提示するように一つの条項ではなく、二つの条項（第 28 条と第 29 条）。
- スートラ 1282–1310 は、VinSū (RS) = VinSū (TU) が提示するように二つの条項ではなく、一つの条項（第 34 条）。
- スートラ 1420–1445 は、VinSū (RS) = VinSū (TU) が提示するように二つの条項ではなく、一つの条項（第 39 条）。
- スートラ 1638–1668 は、VinSū (RS) = VinSū (TU) が提示するように三つの条項ではなく、一つの条項（第 54 条）。

このような諸々の相違により、たとえば *paramparabhojanam*（スートラ 1234–1263）を例として挙げると、*paramparabhojanam* は筆者の提示する区分では第 31 条であるが、VinSū (RS) = VinSū (TU) に依拠すると第 26 条である、という結果になる。

また、VinSū (RS) = VinSū (TU) において第 64 条以降で筆者の提示する区分と相違する箇所は存在しない。しかし、VinSū (RS) = VinSū (TU) は *Prāyaścittika* 第 63 条を提示しないにもかかわらず、*Prāyaścittika* が全部で 90 条存在するとしていることだけから判断しても、不備が存在すること

Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna の古くて新しいサンスクリット語写本（生野）85 は明らかである¹⁵⁷。

略号¹⁵⁸

『根本有部毘奈耶』 唐・義浄訳『根本説一切有部毘奈耶』（高楠 順次郎・渡辺海旭（編）『大正新脩大藏経』第23巻, no. 1442, 大正新脩大藏経刊行会, 1925）。

BHSD Franklin EDGERTON. *Buddhist Hybrid Sanskrit Grammar and Dictionary*. Volume II: Dictionary. New Haven: Yale University Press, 1953.

C Co ne 版

D sDe dge 版

G dGa' ldan 写本

Mvy (IF) *A New Critical Edition of the Mahāvīyutpatti: Sanskrit-Tibetan-Mongolian Dictionary of Buddhist Terminology* 新訂翻訳名義大集. Ed. Yumiko ISHIHAMA & Yōichi FUKUDA. *Materials for Tibetan-Mongolian Dictionaries*, 1. Tokyo: The Toyo Bunko, 1989.

N sNar thang 版

P Peking 版（『影印 北京版 西藏大藏経 — 大谷大学図書館蔵 —』. bKa' 'gyur: 1717–1720（康熙 56–59）年開版, bsTan 'gyur: 1724（雍正 2）年開版）

¹⁵⁷ さらに、*Samghāvaśeṣa* の条項の分け方に関しても VinSū (RS) 25.14–30 と VinSū (TU) 29.30–30.10 において不備がみられる。

¹⁵⁸ 本稿において使用する記号表記は次の通りである：[] は損傷した文字あるいは文字の一部、() は欠損していない箇所での補い、《 》 は写本そのものにおいて指示されている補い、{ } は写本に書かれている文字の削除、{ } } は写本そのものにおいて指示されている削除、+ □ は筆者によって修正された語句、r は表面 (recto)、v は裏面 (verso) を表わす。

86 *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasavyākhyāna* の古くて新しいサンスクリット語写本（生野）

PW Otto BÖHLINGK & Rudolph ROTH. *Sanskrit-Wörterbuch*. 7 Bände. St. Petersburg: Buchdruckerei der Kaiserlichen Akademie der Wissenschaften, 1855–1875.

VinSū (RS) *Vinayasūtra of Bhadanta Guṇaprabha*. Ed. RĀHULA SĀṆKṚTYĀYANA. Singhi Jain Series, 74. Bombay: Bhāratīya vidyā bhavan, 1981.

VinSū (TU) *The Digital Data of Preliminary Transliteration of the Vinayasūtra*. Ed. Study Group of Sanskrit Manuscripts in Tibetan dBu med Script. Tokyo: Taishō University, 2001 (https://www.tais.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2015/07/vinayasutra_trlt.pdf).

VinSū MS *The Facsimile Edition of a Collection of Sanskrit Palm-leaf Manuscripts in Tibetan dBu med Script*. Ed. Study Group of Sanskrit Manuscripts in Tibetan dBu med Script. Tokyo: Institute for Comprehensive Studies of Buddhism, Taishō University, 2001.

VinSūVṛSv (BG) *Vinaya-sūtra and Auto-commentary on the Same by Guṇaprabha: Chapter I — Pravrajyā-vastu*. Ed. P. V. BAPAT & V. V. GOKHALE. Tibetan Sanskrit Works Series, 22. Patna: Kashi Prasad Jayaswal Research Institute, 1982.

VinSūVṛSv (TU) 8 『律経』『出家事』研究会『『律経』『出家事』の研究(8)』『大正大学 総合佛教研究所年報』第34号(2012): 29–44.

VinSūVṛSv MS VinSū MS 参照.

参考文献

生野昌範 2020a 『『根本説一切有部律』に属する *Vinayavibhaṅga*, Pāyattikā 第6条のサンスクリット語断簡』『国際仏教学大学院大学研究紀要』第24号: 27–70.

——— 2020b 『*Vinaya-uttaragrantha* の *Upāliparipṛcchā*, Prāṭideśanikā 第2–

Vinayasūtravṛtyabhidhānasvayākhyāna の古くて新しいサンスクリット語写本 (生野) 87

4 条に相当するサンスクリット語断簡」 *Bulletin of the International Institute for Buddhist Studies* (『国際仏教学研究紀要』) 第 3 号: 91–120.

瀧英寛 2001 「中国仏教文献資料に見られる徳光 *Guṇaprabha* について」
『佛教文化学会紀要』第 10 号: 121–136.

中川正法 1993 「*Vinayasūtra* と *Mahāvīyūtpatti*」前田惠學 (編) 『渡辺文麿博士追悼記念論集 原始仏教と大乘仏教』上, 永田文昌堂: 355–371.

——— 1999 「『律経自註』梵文写本研究の現状」『筑紫女学園短期大学紀要』第 34 号: 137–144.

——— 2002 「*Vinayasūtra* における波羅夷法盜戒 (IV)」『櫻部建博士喜寿記念論集 初期仏教からアビダルマへ』平楽寺書店: 233–240.

松田和信 2019 「三啓集 (*Tridaṇḍamālā*) における勝義空経とブツダチャリタ」『印度学仏教学研究』第 68 巻第 1 号: 1–11.

松本史郎 1987 「グナプラバ *Guṇaprabha*」三枝充恵 (編) 『インド仏教人名辞典』法蔵館: 75–76.

八尾史 2020 「律経および自註」斎藤明ほか (編) 『仏典解題事典 (第三版)』春秋社: 138.

BANDURSKI, Frank. 1994. “Übersicht über die Göttinger Sammlungen der von Rāhula Sāṅkṛtyāyana in Tibet aufgefundenen buddhistischen Sanskrit-Texte (Funde buddhistischer Sanskrit-Handschriften, III).” In *Untersuchungen zur buddhistischen Literatur*: 9–126. Sanskrit-Wörterbuch der buddhistischen Texte aus den Turfan-Funden, Beiheft 5. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.

CLARKE, Shayne. 2015. “Vinayas.” In *Brill’s Encyclopedia of Buddhism*. Volume I: Literature and Languages, ed. J. A. SILK *et al.*: 60–87. Handbook of Oriental Studies, Section Two: India, 29.1. Leiden/Boston: Brill.

- . 2016. “The ‘*Dul bar byed pa (Vīṇitaka)*’ Case-Law Section of the Mūlasarvāstivādin Uttaragrantha: Sources for Guṇaprabha’s *Vinayasūtra* and Indian Buddhist Attitudes towards Sex and Sexuality.” *Journal of the International College for Postgraduate Buddhist Studies* 20: 49–196.
- HU-VON HINÜBER, Haiyan. 1997. “On the Sources of Some Entries in the *Mahāvīyutpatti* — Contributions to Indo-Tibetan Lexicography I —.” In *Untersuchungen zur buddhistischen Literature II*, ed. H. BECHERT, S. BRETTFELD & P. KIEFFER-PÜLZ: 183–199. Sanskrit-Wörterbuch der buddhistischen Texte aus den Turfan-Funden, Beiheft 8. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.
- . 2006. “Some Remarks on the Sanskrit Manuscript of the Mūlasarvāstivāda-Prātimokṣasūtra Found in Tibet.” In *Jaina-itiḥāsa-ratna: Festschrift für Gustav Roth zum 90. Geburtstag*, ed. U. HÜSKEN, P. KIEFFER-PÜLZ & A. PETERS: 283–337. Indica et Tibetica, 47. Marburg: Indica et Tibetica Verlag.
- KIEFFER-PÜLZ, Petra. 2018. “Sex-change in Buddhist Legal Literature with a Focus on the Theravāda Tradition.” *Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhology* 21: 27–62.
- LUO, Hong. 2019. “Guṇaprabha.” In *Brill’s Encyclopedia of Buddhism*. Volume II: Lives, ed. J. A. SILK *et al.*: 198–203. Handbook of Oriental Studies, Section Two: India, 29.2. Leiden/Boston: Brill.
- MELZER, Gudrun. 2014. “A Palaeographic Study of a Buddhist Manuscript from the Gilgit Region: A Glimpse into a Scribes’ Workshop.” In *Manuscript Cultures: Mapping the Field*, ed. J. B. QUENZER, D. BONDAREV & J.-U. SOBISCH: 227–272. Studies in Manuscript Cultures, 1. Berlin/Munich/Boston: De Gruyter.
- NAKAGAWA, Masanori. 1987. “Vinayasūtravṛtṭi of Guṇaprabha — Pārājikam (1).” *Nanto Bukkyo or Journal of the Nanto Society for Buddhist Studies* 57: 50–69.

- . 1991. “Vinayasūtravṛtṭi of Guṇaprabha — Pārājīkam (2).” In *Essays in Honor of Dr. Shoren Ihara on His Seventieth Birthday*: 251–274. Fukuoka.
- . 1996. “The Text of the Adattādāna-pārājīkam in the Vinayasūtravṛtṭi.” *Journal of Chikushi Jogakuen Junior College* 31: 19–25.
- . 1998. “On Pārājīkam in the Vinayasūtravṛtṭi.” *Journal of Chikushi Jogakuen Junior College* 33: 169–177.
- . 2000a. “The Text of the Adattādāna-pārājīkam in the Vinayasūtravṛtṭi (2).” In *Indo no bunka to ronri*, ed. A. AKAMATSU: 173–179. Fukuoka: Kyushu University Press.
- . 2000b. “On the Adattādāna-pārājīkam in the Vinayasūtravṛtṭi — Transcription Text on the Sūtras no. 120 ~ 123 —.” *Journal of Indian and Buddhist Studies (Indogaku bukkyōgaku kenkyū)* 48.2: 1135–1133.
- NIETUPSKI, Paul K. 2009. “Guṇaprabha’s *Vinayasūtra* Corpus: Texts and Contexts.” *Journal of the International Association of Tibetan Studies* 5: 1–19.
- . 2017. “Guṇaprabha on Monastic Authority and Authoritative Doctrine.” *Journal of Buddhist Ethics* 24: 169–224.
- SĀṆKṚTYĀYANA, RĀHULA. 1937. “Second Search of Sanskrit Palm-leaf MSS. in Tibet.” *The Journal of the Bihar and Orissa Research Society* 23.1: 1–57.
- SFERRA, Francesco. 2008. “Sanskrit Manuscripts and Photographs of Sanskrit Manuscripts in Giuseppe Tucci’s Collection.” In *Sanskrit Texts from Giuseppe Tucci’s Collection*. Part I, ed. F. SFERRA: 15–78. Manuscripta Buddhica, 1/Serie Orientale Roma, 104. Roma: Istituto Italiano per l’Africa e l’Oriente.
- SHŌNO, Masanori. 2010. “A Re-edited Text of the *Vārṣāvastu* in the *Vinayavastu* and a Tentative Re-edited Text of the *Vārṣīkavastu* in the *Vinayasūtra*.” *Acta Tibetica et Buddhica* 3: 1–128.

90 *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākyāna* の古くて新しいサンスクリット語写本（生野）

———. 2016. “More Folios of the *Prātimokṣa-Vibhaṅga* of the Mahāsāṃghika-Lokottaravādins in Early Western Gupta Script.” In *Buddhist Manuscripts IV, Manuscripts in the Schøyen Collection*, ed. J. BRAARVIG: 321–327, Oslo: Hermes Academic Publishing.

YONEZAWA, Yoshiyasu. 2001. “Textual Survey.” In *Introduction to the Facsimile Edition of a Collection of Sanskrit Palm-leaf Manuscripts in Tibetan dBU med Script*: 9–28. Tokyo: Taishō University.

———. 2016. “sTeng lo tshā ba Tshul khrims ’byung gnas: Tibetan Translator of the *Vinayasūtravṛtṭy-abhidhāna-svayākyāna*.” *Journal of Indian and Buddhist Studies (Indogaku bukkyōgaku kenkyū)* 64.3: 1147–1154.

———. 2020a. “The Sanskrit Manuscript of the *Vinayasūtravṛtṭi* in dBU med Script.” *Journal of Naritasan Institute for Buddhist Studies* 43: 65–84.

———. 2020b. “Sanskrit Manuscripts of the *Vinayasūtravṛtṭi-abhidhāna-svayākyāna*.” In *Sanskrit Manuscripts in China III: Proceedings of a Panel at the 2016 Beijing International Seminar on Tibetan Studies, August 1 to 4*, ed. B. KELLNER, X. LI & J. KRAMER: 445–455. Beijing: China Tibetology Publishing House.

（令和2年度科学研究費基盤研究（C）19K00067 による研究成果の一部）

<キーワード>

RĀHULA SĀṆKRṬYĀYANA, *Vinayasūtra*, *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākyāna*, サンスクリット語写本

Summary

More Folios Belonging to the *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna*

SHŌNO Masanori

A Sanskrit manuscript of the *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* was photographed by RĀHULA SĀṆKṚTYĀYANA in 1936 at Sa skya in Tibet. He reported that the manuscript consisted of 72 folios comprising two different sets, 38 and 34 folios, respectively. The 38 folio set is catalogued as Xc 14/64 and the 34 as Xc 14/61 (a), both preserved in Göttingen.

It was pointed out previously that, since there were two folios which had the folio number “19” among Xc 14/61 (a), the total number of folios was 35 not 34. However, in order to determine the total number of folios, the contents of the two folios need to be examined. For that reason, this paper examines the contents of the two folios. Since the contents of the two folios differ, I determine that the total number of folios in Xc 14/61 (a) is 35.

Furthermore, apart from the 72 (actually 73) folios (= Xc 14/61 (a) and Xc 14/64), three further folios (= Xc 14/61 (b)) have been considered to belong to the “*Pratimokṣasūtraṭīkā*”. However, these three folios actually belong to the *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna*. Of the three folios, the first and second are parts of *Pārājika* 2 for monks, while the third preserves parts of the *Prāyaścittika* section for nuns.

Therefore, this paper clarifies that at present 76 folios (not 72) in the Göttingen SĀṆKṚTYĀYANA Collection belong to the *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna*.

Incidentally, published editions of the *Vinayasūtra* have serious deficiencies in how they divide the 90 *Prāyaścittikas*; this paper remedies those deficiencies.

92 *Vinayasūtravṛtṭyabhidhānasvayākhyāna* の古くて新しいサンスクリット語写本（生野）

*Project Researcher,
International College
for Postgraduate Buddhist Studies*